

出展：厚生労働省「発達障害の理解のために」



昨年行われた文部科学省の調査によると、普通学級に通う公立小中学生の6・5%が、発達に何らかの課題があるという結果でした。40人学級で1クラスに2〜3人が在籍することになります。この身近な発達障がいとは、どのようなものなのでしょうか。

# 発達障がいって何だろう？

## 1 理解する

### 発達障がいとは？

発達障がいとは、脳の機能障がいがある原因といわれており、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などがあります(上図参照)。

発達障がいのある人は、定型発達の人(標準タイプ)とは異なった脳の特性を持って生まれてきます。そのため、定型発達の人とは異なった成長・発達のかたまりをしま

す。また、成長・発達のかたまりに「でこぼこ」やかたよみがみられます。成長しないのではなく、成長のしかたに違いがあるということです。

発達障がいの特性は、言葉の発達の遅れやコミュニケーションがとりにくい、落ち着きがない、計算が極端に苦手など一人一人違います。また、障がいごとの特性がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合が多いため、障がいの種類を明確にわけて診断することは大変難しいとされています。

周囲からは、わかりにくい障がいであるため、発達障がいのある人たちは、人とうまくコミュニケーションがとれないなど、その行動から誤解されやすく、傷ついてしまふことがあります。発達障がいのある人たちが、自分らしい生活を送るためには、周囲の人々の正しい理解や配慮、協力が欠かせません。

### もっと理解しよう①



## Q & A

発達障がいについての疑問をまとめてみました

### Q 発達障がいの原因は？

育て方や環境によるものではありません A

脳機能の何らかの障がいと考えられていますが、原因は特定されていません。育て方や本人の努力不足でおこるものではありません。

### Q 発達障がいと診断されたら？

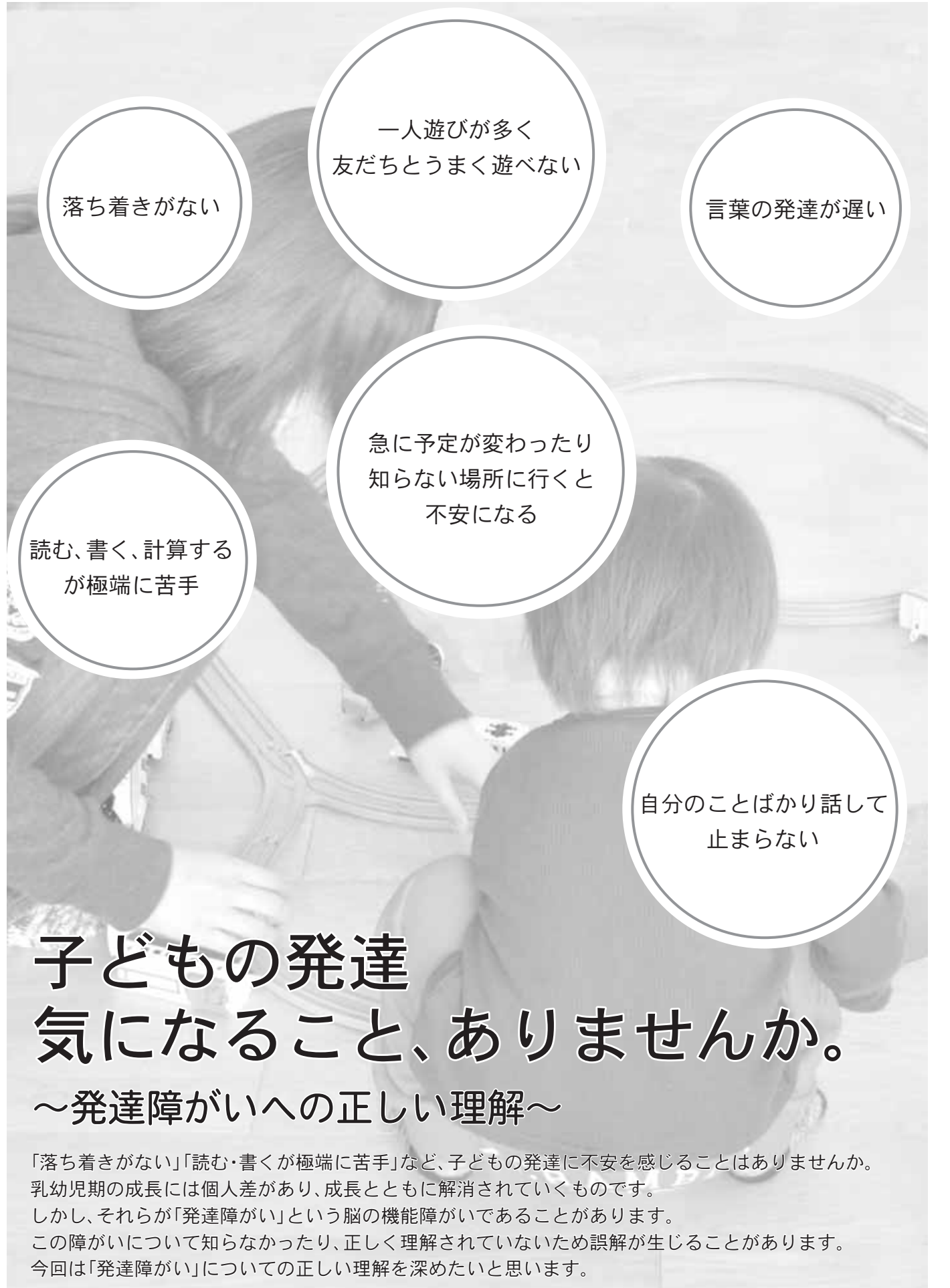
得意なことを伸ばしていきましょう A

大切なのは、一人一人の個性を見極めて必要な支援を行うことです。よくできたことは、ほめて自信を持たせると能力を発揮していきます。得意な分野で才能を発揮し社会で活躍する人たちも少なくありません。

### Q 発達障がいの子はどんなことで困るの？

周囲から誤解を受けやすいのです A

発達障がいの子もたちが苦手なことの一つに、コミュニケーションをとることがあります。自分の思いをうまく伝えられないために「自分勝手な子」「わがままな子」などと思われることがあります。子どもたちは、周囲の理解があれば、自分らしく成長できます。



落ち着きがない

一人遊びが多く  
友だちとうまく遊べない

言葉の発達が遅い

急に予定が変わったり  
知らない場所に行くと  
不安になる

読む、書く、計算する  
が極端に苦手

自分のことばかり話して  
止まらない

# 子どもの発達 気になること、ありませんか。

## ～発達障がいへの正しい理解～

「落ち着きがない」「読む・書くが極端に苦手」など、子どもの発達に不安を感じることはありませんか。乳幼児期の成長には個人差があり、成長とともに解消されていくものです。しかし、それらが「発達障がい」という脳の機能障がいであることがあります。この障がいについて知らなかったり、正しく理解されていないため誤解が生じることがあります。今回は「発達障がい」についての正しい理解を深めたいと思います。

※「障害」と「障がい」の表記について…今回の特集では、法令や国及び地方公共団体の事業名、又は団体名などの固有の名称については「障害」と表記しそれ以外を原則として「障がい」と表記しています。



もっと理解しよう②

## 広汎性発達障害 注意欠陥多動性障害 (ADHD) 学習障害 (LD)



それぞれの発達障がいの特徴を紹介します。いずれの障がいの場合も他の発達障がいをあわせている場合が多くみられます。

### 注意欠陥多動性障害(ADHD)

「集中できない(不注意)」「じっとしていられない(多動・多弁)」「考えるより先に動く(衝動的な行動)」などを特徴とする発達障がいで、通常7歳以前に現れます。多動や不注意といったようすが目立つのは小・中学生ごろですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなるともいわれています。

### 学習障害(LD)

全般的な知的発達に遅れはないものの、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることにいちじるしい困難を示すさまざまな状態をいいます。

## 広汎性発達障害

コミュニケーション能力や社会性に関連する脳の領域に関係する発達障がいの総称です。自閉症、アスペルガー症候群のほか、レット症候群、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害を含みます。

### ■ 自閉症

「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障がい」「対人関係・社会性の障がい」「パターン化した行動、こだわり」などの特徴を持つ障がいで、3歳までには何らかの症状がみられます。自閉症の人々の半数以上は知的障がいを伴いますが、知能に遅れがない高機能自閉症の人々もいます。最近では、症状が軽くても自閉症と同質の障がいがある場合、自閉症スペクトラムと呼ばれることがあります。

### ■ アスペルガー症候群

広い意味での自閉症に含まれる一つのタイプで、「コミュニケーションの障がい」「対人関係・社会性の障がい」「パターン化した行動、興味・関心のかたより」があります。自閉症のように、幼児期に言葉の発達の遅れがないため、障がいがあることがわかりにくいのですが、成長とともに不器用さがはっきりすることが特徴です。

参考：内閣府大臣官房政府広報室「政府広報オンライン」より

## 3 配慮する

### 発達障がいの子と接するときは

発達障がいがあると、いつても、障がいの種類や年齢、性格などによって、一人一人、特徴が違います。そのため、生活の中で感じる苦手なこと一人一人違います。大切なのは、家族や地域の皆さんが、一人一人の個性を尊重し、その子らしい成長を温かく見守ることです。また、肯定的に関わることも大切です。しかる機会よりほめる機会を増やしましょう。褒めることは肯定的に関わることにつながります。ここでは、発達障がいのある子への具体的な配慮や接し方について考えてみたいと思います。

### 会話の時など、相手の言っていることがよく理解できていないようで話がかみ合わない

言葉(音声)による情報は、わずかな時間で消えてしまうため、発達障がいのある人には理解しづらい場合があります。言葉を使う場合には、やさしく、ゆっくり話かけて下さい。また、回りくどい表現やあいまいな表現は差し控え、手短にはっきりと情報を伝えて下さい。文字や絵、身ぶりなどで視覚的にわかりやすく伝えると理解しやすいと言われてます。

### しばしば大きなパニックをおこすパニックをおこしてしまった時の対応は

パニックをおこすのには、必ず理由があるので、その理由を考えてみるのが重要です。パニックをおこして一番辛いのは本人です。本人の特性にあわせ、パニックをおこさない環境設定と工夫して下さい。パニックをおこしてしまった場合には、周囲から危険なものを取り除き、本人の落ち着く場所に移動させ、おさまるまで静かに見守って下さい。不用意な声かけや慰めは、逆効果になる場合があります。おさまったら、自分をコントロールできたことをほめてあげることも重要です。

### 相手の気持ちが理解できていないようで場にそぐわない不適切な言動がある

集団で生活するときには、相手の心を読む、相手の気持ちになって考えるということは、とても重要なことです。多くの方は、日常の生活の中で学んでいきますが、発達障がいのある人の中には、自然に学ぶことに困難を抱えている人が多いようです。そのため、時として相手の気持ちを考えないような言葉や行いをしてしまうことがあります。本人は決して悪気があってそうした言葉や行いをしてるのはではないことを周囲が理解して下さい。そして、本人に分かるように丁寧に状況を説明して下さい。

### ものごとをすぐ忘れてしまい忘れ物が多い

ちょっとしたことでもメモを取ったり、チェックリストを利用するなど、視覚的に残るもので確認させることが重要です。メモやチェックリストを見ることも忘れてしまうような場合でも、しからず必ず目に触れるように工夫してあげることが大切です。

## 2 気づく

### 気になる行動・反応はありますか？

発達障がいのある子どもは、人とうまく関わることやコミュニケーションをとることが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題に直面したり、周囲から誤解を受けてしまうことがあります。発達障がいがある周囲に理解されず、不適切な関わり方によって、パニックやいじめ被害、不登校、引きこもりなどの二次的な問題を引き起こすことがあるので、注意が必要です。発達障がいのある子どもが、地域で自分らしく成長するために、**早期発見・早期療育**が大切です。ここでは、発達障がいに関するポイントをご紹介します。

- 【人との関わり方】
  - 一人遊びが多い
  - 一方的でやり取りがしにくいおとなや年上の子、年下のことは遊べるが、同級生とは遊べない
- 【コミュニケーション】
  - 話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い
  - 冗談がわかりにくい
  - 「イメージーション・想像性」相手にとって失礼なことや傷つくことを言ってしまう
  - 急な予定変更に不安や混乱したようすがみられる
  - 同じことを繰り返す
- 【注意・集中】
  - 落ち着きがない
  - 集中力がない
  - いつもぼんやりしている
  - 忘れ物が多い
- 【感覚】
  - 雷等、突然の大きな音に異常にこわがる
  - 極端な偏食
- 【学習】
  - 難しい漢字を読むことができない一方、簡単なひらがなが書けない
  - 図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手

## 4 相談する

### 適切な支援を

発達障がいにより早く気づくことで、その子の個性をいかしながら、その子らしく成長するための支援を行うことができます。どんなささいなことでも、子どもの発育で気にならなると不安を感じたら、できるだけ早く、専門機関に相談することが大切です。

子育てで気になっていることや悩みはありませんか？

## お気軽にご相談下さい

子どもの発育のことにかぎらず、子育てで気になっていることや悩みがありましたら、下記相談窓口までご連絡下さい。



相談窓口	所在地	電話番号
役場(静内庁舎)福祉課	静内御幸町3丁目2番50号	43-2111
役場(三石庁舎)町民福祉課	三石本町212番地	33-2111
静内保健福祉センター	静内緑町4丁目5番1号	42-1287
三石保健センター	三石本町214番地	33-2233
静内子育て支援センター	静内緑町3丁目6番20号(静内保育所内)	42-0321
新ひだか児童養育相談センター	静内こうせい町2丁目8番14号	42-8715
しずない心の杜地域療育センター	静内こうせい町2丁目8番27号(オープンコミュニティみんくる内)	45-0341